

団 体 名： 青海島いわがき育成研究会

所 在 地： 長門市通38番地2

活動テーマ： 地域経済の活性化と漁業者の意識改革に向けて

(活動紹介)

1 活動の目的

衰退する北浦地域の沿岸漁業経営の安定と地域経済の活性化を実現するため、当海域でイワガキ等の育成及び事業化が可能であるかを調査研究することを目的として活動しています。

2 これまでの活動内容等

平成21年5月山口県から、長門市通赤崎地先における試験養殖の承認を受け、イワガキの育成・販売に関する調査研究を開始し、全国各地の先進地視察を積み重ね、育成技術及び販売手法の習得等の活動に取り組んできました。

◆ 先進地視察

県水産事務所の支援をいただき、京都府舞鶴栽培センター、島根県隠岐郡海士町、広島県江田島市、愛媛県南宇和郡愛南町、大分県臼杵市深江、長崎県南松浦郡新上五島町、韓国統営市へ視察研修を実施することで、先端技術を習得し、各地の漁業者との交流も深めています。

◆ 区画漁業権の承認に向けた活動

3年間実施した試験養殖により、当海域でのイワガキ育成が可能であることが判断でき、また、販路の確保もできました。この間、地域漁業者の賛同を得るため、情報誌の発行、アンケート及び賛同署名活動に取り組み、漁業者の意識改革を促す活動を展開し、平成25年には区画漁業権の取得ができたところです。

◆ 販路拡大と登録商標の承認

地域経済の活性化を促進するため、「6次産業化」を念頭に地域の名勝地「瀬叢」にちなみ「せむら牡蠣」のブランド名を商標登録し、観光客を誘致するカキ小屋の設置を行い、また、市内のみならず県下各地のイベントに積極的に参加し、県民に馴染みの薄い夏牡蠣の宣伝に努めています。

3 活動の展望

研究会では、当海域の生産性の高さに確信を強めており、行政や地域各界の支援の下に「せむら牡蠣」の知名度も高まり、県内はもとより県外の業者からも販売について相談を受けている状況です。今後は、当研究会で蓄積したノウハウを漁業者に提供し、地域経済の更なる活性化を目指します。



新上五島町での視察研修



イワガキの出荷作業